



第56期 中間事業報告書
2003年4月1日～2003年9月30日

東洋水産から株主の皆様へ



皆様に愛され続けて四半世紀。

おかげさまで「マルちゃん 赤いきつね」は
25周年を迎えました。



赤いきつねの誕生は、1978年8月。そのルーツは、1975年に発売された「マルちゃんのきつねうどん」。業界初の本格的即席和風カップ麺として大ヒットを記録しました。しかし、その後 競合品の出現等により、一層のブランドイメージの強化の必要性が生じ、1978年8月、新たに「赤いきつねうどん」として生まれ変わりました。

赤いきつねの特徴は、よく味のしみた大きなおあげとだしの効いたつゆ。コシのあるしっかりした麺もおいしさの理由です。オーソドックスで飽きのこない味として、長い間評価を頂いてきました。そして、数度のリニューアルを経て、現在では日本を代表する和風カップ麺に成長しました。

この場をかりて
お礼申し上げますとともに、
今後ともより一層のご愛顧を
お願い申し上げます。

CMに見る赤いきつねシリーズの軌跡

1978



アメリカントラック 篇
赤いきつねうどん発売

1980



西部劇 篇
緑のためぎ天そば発売

1989



ナポレオン 篇
赤い大ききつねうどん発売
緑の大だぬきそば発売

1995



中年ガキ大将 篇
豚カレーうどん発売

1996



お宝探検 篇
白いちからうどん発売

忘れてはならないのがパッケージとコマーシャル。ユニークなネーミングに、赤と白を基調にした大胆な色使いのシンプルなデザインで、どこにあっても独特の存在感を誇っています。お馴染みのテレビコマーシャルは、皆様ご存知の通り「赤いきつねと言えば武田鉄矢」1978年の発売以来一貫してCMキャラクターとして出演しています。商品とタレントのこんな長い関係は、他に例を見ないものです。

これまでに放映されたCMは、年平均5タイプとすると延べ作品数は優に100作品を超えています。武田さんご本人のコメントによると、『自分にとって赤いきつねは、「親友」。』逆に当社にとっても武田さんの存在は大きな財産で、今では身内同様です。武田さんを抜きにしては、現在の赤いきつねは考えられません。今後も良きパートナーとして未永くお付き合い頂き、いっしょに力を合わせて皆様においしさと楽しさをお届けできればと思っています。

和風カップ麺シリーズ ラインナップ



赤いきつねうどん



緑のためき天そば



黒い豚カレーうどん



紺のきつねそば



白いカモちゅうどん

2



1998



水戸黄門 篇

赤いきつね発売20周年

2000



宇宙遊泳 篇

緑のためき発売20周年

2003



赤シャツ 篇

赤いきつね発売25周年

麺は100%国産物産を使用しています



Products Information

■即席麺

当社の「即席麺」は、年間約900億円を売上げています。

中でも、消費者の多様な嗜好に対応して開発した「和風カップ麺」シリーズは、年間売上約300億円を誇ります。

また、本格的な味わいが楽しめるカップ麺として、ますます人気を集めている「麺づくり」シリーズ、

縦型タイプのカップ麺として開発された「ホットヌードル」シリーズなどが

当社の主力商品として位置付けられています。

「マルちゃん ホットヌードル」を リニューアル。

縦型カップ麺「マルちゃん ホットヌードル」を本年7月リニューアル発売しました。魚介類のエキスをスープに入れたほか、具材を増やして日本農林規格（JAS）の上級規格商品に仕上げています。ラインナップは、中華風しょうゆ味のスープにキクラゲなどの具材を入れた「醤油」、カニ風かまぼこやイカ、エビなどを入れた塩味の「はま塩」、輪切りのイカやキャベツなどを入れたちゃんぽん風の「豚骨」の3種類です。



「マルちゃん 麺づくり」に 新しい仲間が加わりました。

ノンフライカップ麺「マルちゃん 麺づくり」の新しい味「鰹だしコク塩」を本年8月に新発売しました。ポークとチキンのエキスをベースに、鰹の風味を効かせたスープが特徴。また、既存の「鶏ガラ醤油」「合わせ味噌」「濃厚豚骨」の3品も新商品に合わせてリニューアル発売しました。



カップラーメンにも健康志向を。

水産・海洋素材を生かした健康志向のカップ入り即席麺「ISOLA（イゾラ）」2品を本年9月に新発売しました。スープに魚コラーゲン、麺（ノンフライ麺）に必須アミノ酸を添加。3大栄養素のバランスを理想的とされる、たんぱく質2・脂質2・炭水化物6に調節し、カルシウムとビタミンB1、B2も強化。調味料の塩にはミネラル成分を多く含む沖縄産の塩を使用しました。味は「沖縄風醤油味」と「エスニック風海鮮塩味」の2種類です。



■生麺

当社の「生麺」は、年間約410億円の売上を誇り、売上・シェアともに全国第一位の地位を築いています。

中でも「焼そば3人前」は、1975年の発売以来、のびにくく弾力のある麺となじみの良い粉末ソースが支持され続け、生麺の中で日本一の売上を誇っています。

また、なめらかさと弾力を保ちつつ15日間の保存が可能な「玉うどん3人前」、

お鍋ひとつの簡単調理と60日間の賞味期限を実現した

「昔ながらの中華そば」シリーズなどがお客様から長く支持を頂き、

当社の主力商品に育っています。



「焼そば3人前」

「玉うどん3人前」

「昔ながら」シリーズにナポリタンが登場。

本年3月に新発売した「昔ながらのナポリタン」は、ソフトな麺にケチャップがたっぷり入ったソースを使用し、どこか懐かしさを感じさせるナポリタンを再現しました。



「昔ながらのナポリタン」



「昔ながらの中華そば」

■チルド食品

当社の「チルド食品」は、年間約68億円を売上げています。

中でも、全国的に展開するチルドシュウマイは、

本年9月にリニューアルした「えびシュウマイ」を代表として好調に推移しており、当社の主力商品に育っています。

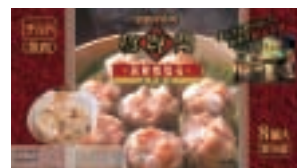


「えびシュウマイ」

横浜中華街の味わいを、そのままご家庭に。

「食卓に最新の中華の味をお届けしたい！」この想いを実現するために、横浜中華街で注目を集めているお店「招福門」の味を商品化。本年9月に「横浜中華街 招福門」シリーズ9品を新発売しました。

伝統の味を守りながらも、その枠にとらわれない新しい発想の中華は、食卓に感動もお届けします。



「招福門 えび焼売」



「招福門 ふかひれ入りスープ餃子」

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃よりご支援とご厚情を賜り心より感謝申し上げます。

さて、当社第56期の中間決算を終えましたので、営業の概況をご報告申し上げます。

●当中間期の概況(連結)

当食品業界は、長梅雨と記録的な冷夏における個人消費の低迷、商品単価の下落が続き、販売競争はますます激化し、経営環境は一段と厳しくなっております。また、お客様の商品に対する安全意識が高まり、企業としての社会的責任があらためて問われております。そのような状況の中、当社は商品の安全性を高めるため品質管理の徹底をはかり、従業員の品質管理意識の再確認をするとともに、コスト削減ならびに積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、売上高は、昨年と比べ2.5%減収の1,531億10百万円、経常利益は、為替の影響もあり4.4%減益の81億51百万円、中間純利益は、投資有価証券評価損が減少したことにより7.8%増益の41億48百万円となりました。

●通期の見通し(連結)

当業界は、国内外を問わず販売価格の低価格化傾向が継続し、厳しい市場環境が継続するものと思われます。そのような中、売上は消費者ニーズに合致した商品の開発ならびに、グループ全体の総合力を結集しブランド力を高めることにより販売の確保を狙い、経費面では、工場の統廃合を含む再構築を進め、より一層の生産コストの削減、費用の効率的な活用に注力していく所存であります。

以上により、通期の売上高は、3,130億円、経常利益は、178億円、当期純利益は、90億円を見込んでおります。

2003年12月

代表取締役社長 堤 殷

●加工食品部門

加工食品部門の主要事業である国内即席麺事業の売上は、袋麺の「昔ながらの中華そば」「屋台十八番」が好調に推移し、カップ麺の和風カップ麺等既存商品が堅調に推移したことに加え、ノンフライ麺の「麺づくり」も引き続き大幅増となり順調に推移しました。

生麺事業の売上は、冷夏の影響による「冷しラーメン」の減少により微減となりました。

冷凍食品事業の売上は、冷凍麺の低価格化が一層進み減少となったため、微減となりました。以上の結果、加工食品部門の国内売上は総じて順調に推移しました。

また、海外売上は、米国の即席麺事業が引き続き堅調に推移しておりますが、為替が期初想定より約10円円高に振れたこと等により円換算後においては減少となっております。その結果、加工食品部門全体の売上高は、1.1%増収の**1,114億39百万円**となりました。

事業セグメント別売上高

72.8%

●魚介類部門

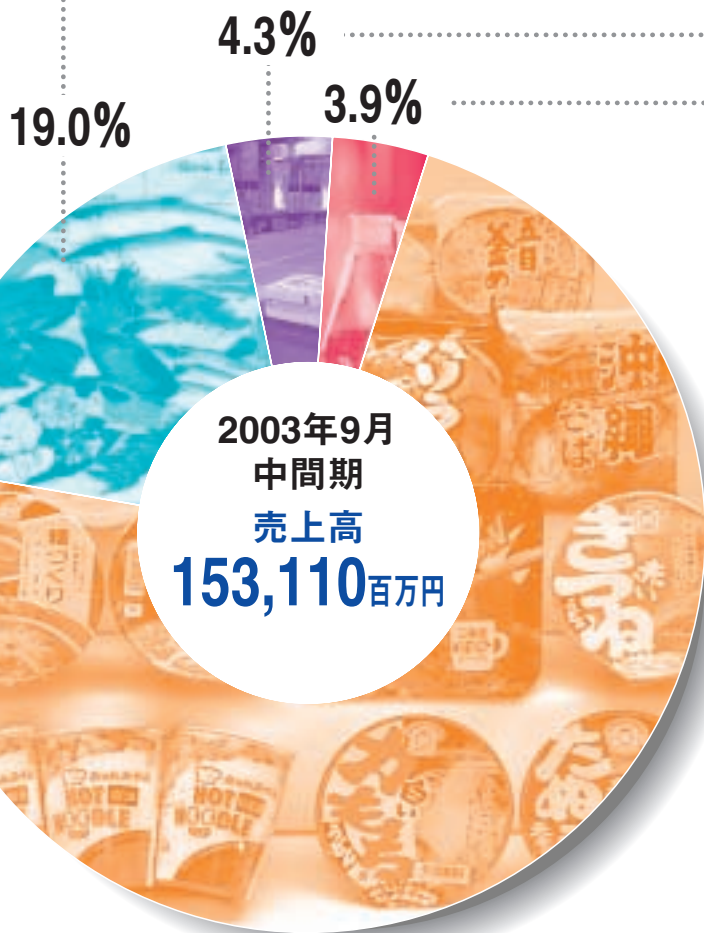
魚介類部門は、商品選別の強化と加工品への重点志向による商品シェアアップを目指してまいりました。そのような中、全般的なデフレ経済による消費低迷ならびに魚価下落の影響もあり、売上高は、15.0%減収の**291億38百万円**になりました。

●冷蔵庫部門

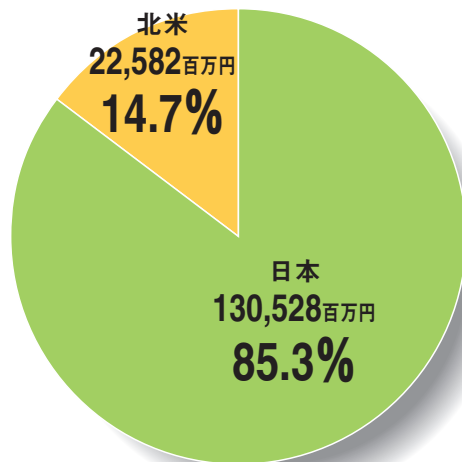
冷蔵庫部門は、景気低迷の中、顧客の在庫圧縮の動きは依然として大きく、売上高は、4.7%減収の**66億48百万円**となりました。

●その他部門

その他部門は、化粧品製造販売ならびに不動産賃貸等が主であります。そのうち不動産賃貸は通常ほとんど変動はありません。化粧品製造販売等の国内連結子会社が売上好調であった結果、売上高は、6.8%増収の**58億84百万円**となりました。



所在セグメント別売上高



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

科 目	当中間期末 (2003.9.30)	前中間期末 (2002.9.30)	前期末 (2003.3.31)	科 目	当中間期末 (2003.9.30)	前中間期末 (2002.9.30)	前期末 (2003.3.31)
資産の部				負債の部			
流動資産	96,085	94,218	97,163	流動負債	52,621	55,989	55,419
現金及び預金	23,407	19,234	24,275	支払手形及び買掛金	20,343	20,519	19,613
受取手形及び売掛金	43,023	43,626	41,669	短期借入金	10,445	13,201	11,021
有価証券	—	53	46	一年以内に返済予定の長期借入金	1,530	639	1,796
たな卸資産	23,133	25,192	23,643	未払法人税等	2,430	3,427	3,590
繰延税金資産	1,726	2,096	2,013	未払事業所税	28	27	57
その他	5,083	4,352	5,869	未払消費税等	703	495	546
貸倒引当金	△289	△338	△353	未払費用	15,712	16,436	16,939
固定資産	126,777	129,568	127,627	返品調整引当金	7	6	6
有形固定資産	101,653	102,703	103,581	その他	1,421	1,234	1,849
建物及び構築物	43,609	41,436	45,138	固定負債	57,087	59,389	57,596
機械装置及び運搬具	21,532	22,147	21,677	社債	30,000	30,000	30,000
土地	34,879	33,697	35,065	長期借入金	1,354	3,055	1,480
建設仮勘定	462	4,298	550	繰延税金負債	2,110	2,098	2,218
その他	1,169	1,123	1,149	退職給付引当金	21,310	21,310	21,045
無形固定資産	2,303	1,560	1,549	役員退職慰労引当金	562	1,131	1,074
投資その他の資産	22,820	25,304	22,496	債務保証損失引当金	1,535	1,563	1,563
投資有価証券	14,853	16,613	13,553	その他	214	230	215
繰延税金資産	6,352	6,935	7,268	負債合計	109,709	115,378	113,016
その他	1,614	1,756	1,675	少数株主持分	7,598	7,095	7,265
貸倒引当金	△0	△0	△0	資本の部			
繰延資産	—	17	—	資本金	18,969	18,969	18,969
資産合計	222,863	223,804	224,791	資本剰余金	20,155	20,155	20,155
				利益剰余金	70,550	64,805	68,353
				その他有価証券評価差額金	433	△954	△855
				為替換算調整勘定	△2,778	△608	△1,020
				自己株式	△1,776	△1,037	△1,093
				資本合計	105,554	101,330	104,509
				負債、少数株主持分及び資本合計	222,863	223,804	224,791

(単位：百万円)

中間連結損益計算書

科 目	当中間期 (2003.4.1~2003.9.30)	前中間期 (2002.4.1~2002.9.30)	前期 (2002.4.1~2003.3.31)
売上高	153,110	157,011	319,373
売上原価	101,929	106,301	212,850
売上総利益	51,180	50,710	106,522
販売費及び一般管理費	42,540	42,030	87,127
営業利益	8,640	8,680	19,395
営業外収益	630	669	1,382
受取利息	54	56	119
受取配当金	120	133	186
賃貸収入	203	192	405
雑収入	252	286	671
営業外費用	1,119	821	1,806
支払利息	364	415	795
賃貸原価	212	104	247
為替差損	449	2	56
雑損失	92	300	706
経常利益	8,151	8,527	18,971
特別利益	160	146	343
固定資産売却益	10	46	62
貸倒引当金戻入額	112	99	82
債務保証損失引当金戻入額	28	—	—
その他の特別利益	9	—	198
特別損失	366	841	4,622
固定資産売却却損	168	240	566
投資有価証券評価損	130	509	3,825
債務保証損失引当金繰入額	—	9	9
その他の特別損失	67	82	221
税金等調整前中間(当期)純利益	7,946	7,832	14,692
法人税、住民税及び事業税	3,342	3,528	7,591
法人税等調整額	—	—	△962
少数株主利益	455	457	667
中間(当期)純利益	4,148	3,847	7,395

(単位:百万円)

中間連結剰余金計算書

科 目	当中間期 (2003.4.1~2003.9.30)	前中間期 (2002.4.1~2002.9.30)	前期 (2002.4.1~2003.3.31)
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	20,155	20,155	20,155
資本剰余金中間期末(期末)残高	20,155	20,155	20,155
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	68,353	62,267	62,267
利益剰余金増加高	4,231	3,847	7,395
中間(当期)純利益	4,148	3,847	7,395
連結子会社減少に伴う増加高	82	—	—
利益剰余金減少高	2,034	1,310	1,310
配当金	1,766	1,248	1,248
取締役賞与	133	55	55
監査役賞与	8	6	6
連結子会社増加に伴う減少高	125	—	—
利益剰余金中間期末(期末)残高	70,550	64,805	68,353

(単位:百万円)

中間連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当中間期 (2003.4.1~2003.9.30)	前中間期 (2002.4.1~2002.9.30)	前期 (2002.4.1~2003.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,731	7,688	21,859
(うち、減価償却費)	(4,167)	(4,134)	(8,547)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,921	△6,189	△13,759
(うち、有形固定資産の取得による支出)	(△3,915)	(△6,045)	(△12,030)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,354	△2,807	△5,490
(うち、配当金の支払額)	(△1,761)	(△1,244)	(△1,249)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△230	△238	△287
現金及び現金同等物の増減額	△774	△1,546	2,321
現金及び現金同等物の期首残高	21,586	19,264	19,264
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	29	—	—
連結除外による現金及び現金同等物の減少額	△2	—	—
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	20,839	17,718	21,586

(単位:百万円)

注、連結子会社 23社 非連結子会社 21社 関連会社 2社
連結子会社

八戸東洋(株)、甲府東洋(株)、フクシマフーズ(株)、東洋冷凍(株)、釧路東洋(株)、サンリク東洋(株)、
(株)酒悦、新東物産(株)、ロゼット(株)、東部貿易(株)、築地東洋(株)、三協フード工業(株)、伊万里
東洋(株)、(株)フレッシュダイナー、(株)東京商社、銚子東洋(株)、ユタカフーズ(株)、田子製氷(株)、石
狩東洋(株)、マルチャン、INC.、マルチャンバーズニア、INC.、バックマル、INC.、シーフリーズL.P.

中間単体財務諸表

中間貸借対照表

科目	当中間期末 (2003.9.30)	前中間期末 (2002.9.30)	前期末 (2003.3.31)
資産の部			
流動資産	70,383	68,949	71,613
固定資産	97,707	100,400	98,344
有形固定資産	61,521	62,233	63,161
無形固定資産	1,930	1,259	1,178
投資その他の資産	34,255	36,907	34,004
繰延資産	—	17	—
資産合計	168,091	169,367	169,958
負債の部			
流動負債	38,501	38,954	40,977
固定負債	46,017	47,862	46,410
負債合計	84,519	86,816	87,387
資本の部			
資本金	18,969	18,969	18,969
資本剰余金	20,155	20,155	20,155
利益剰余金	44,867	44,476	44,424
その他有価証券評価差額金	352	△1,009	△882
自己株式	△772	△40	△96
資本合計	83,572	82,551	82,570
負債・資本合計	168,091	169,367	169,958

(単位: 百万円)

中間損益計算書

科目	当中間期 (2003.4.1~2003.9.30)	前中間期 (2002.4.1~2002.9.30)	前期 (2002.4.1~2003.3.31)
売上高	104,486	108,157	217,691
売上原価	65,798	70,005	138,297
売上総利益	38,687	38,152	79,393
販売費及び一般管理費	35,416	34,438	71,580
営業利益	3,270	3,713	7,812
営業外収益	1,256	1,433	2,352
営業外費用	679	696	1,361
経常利益	3,847	4,451	8,803
特別利益	362	96	273
特別損失	234	707	4,732
税引前中間(当期)純利益	3,975	3,839	4,344
法人税、住民税及び事業税	1,094	1,962	3,283
法人税等調整額	462	△376	△1,140
中間(当期)純利益	2,419	2,253	2,202
前期繰越利益	2,054	1,886	1,886
中間(当期)末処分利益	4,474	4,140	4,089

(単位: 百万円)

株式情報 (2003年9月30日現在)

●株式の状況

会社が発行する株式の総数……427,000,000株
 発行済株式の総数……110,881,044株
 株主数……7,090名

●大株主の状況

順位	株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,466	13.94
2	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,564	6.82
3	田子製氷株式会社	6,021	5.43
4	マルちゃん持株会(従業員持株会)	3,390	3.05
5	株式会社三井住友銀行	2,674	2.41
6	あいおい損害保険株式会社	2,561	2.31
7	住友信託銀行株式会社(信託B口)	2,400	2.16

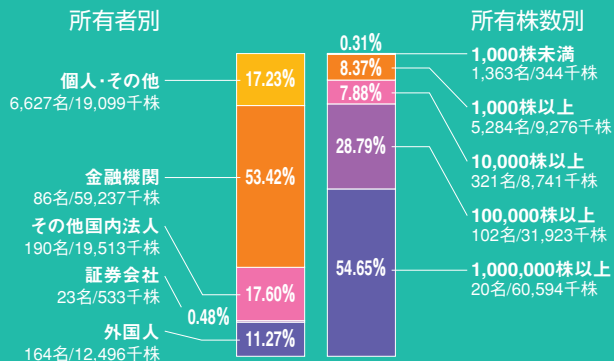
会社概要

創立	1953年3月25日
本社	〒108-8501 東京都港区港南二丁目13番40号 電話(03)3458-5111(代表)
資本金	189億6,952万円
従業員数	1,679名
事業所数	工場6、冷蔵庫14、支店・営業所25 国内関係会社35社 (うち、連結子会社19社、非連結子会社15社、 関連会社1社) 海外関係会社11社 (うち、連結子会社4社、非連結子会社6社、 関連会社1社)

役員

取締役会長	深川 清司	取締役	相楽 滋
取締役社長	堤 殷	取締役	久保 恭司
専務取締役	羽野 勝明	取締役	目羅 甚一
専務取締役	水流 良一	取締役	皆 孝之
常務取締役	井上 安雄	取締役	谷口 文夫
常務取締役	小暮 賀孝	取締役	杉本 忠司
常務取締役	織田 睦彦	取締役	佐藤 勝英
常務取締役	成滝 勝郎	取締役	友田 吉生
		取締役	山内 寛
		取締役	山下 透
		取締役	兼重 信英
		取締役	三浪 博行
		常勤監査役	加藤 晴一
		常勤監査役	錦織 彰郎
		常勤監査役	北村 勝久
		監査役	高良 明

●株式分布状況



●株主優待制度

当社では、株主の皆様への還元策の一環として、ご所有の株式数に応じて自社製品の詰め合わせを進呈する株主優待制度を導入しています。

2003年3月期の実績としましては、3月末現在、1,000株以上ご所有の株主様に対し、3,000円相当の自社製品を、3,000株以上ご所有の株主様に対し5,000円相当の自社製品をそれぞれ7月に進呈させて頂きました。

Stock Information



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (証券代行事務センター) 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社証券代行部 電話(03)3323-7111(代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社全国各支店 日本証券代行株式会社本店・全国各支店
手数料	名義書換 無料 新券交付 株券の再発行の場合は1枚につき250円 株券喪失登録申請 申請1件につき 8,600円 株券1枚につき 500円
1単元の株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)

お知らせ

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各
用紙ご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受
付しております。

東洋水産株式会社



〒108-8501 東京都港区港南二丁目13番40号

TEL(03)3458-5111(代表)

ホームページ <http://www.maruchan.co.jp>